

トイレの中

さーちゃん

ある日、私は図書室で宿題をするのに夢中になり、気づくと私一人だけになっていた。急にもよおしてきたので、三階のトイレに向かった。私は早く済ませようと思いつつ、一番奥のトイレに入った。用を足そうとした瞬間、トイレの中から、ポコッ・ポコッ・ポコッ・ポコッという音が。股の間からのぞき込むと、私の方を見る視線に気づいた。

「キャッー!」

飛びのいた私は恐る恐るもう一度トイレの中を覗いてみた。そこには、真っ赤な血の中にバラバラになった手のようなものが見えた。私は怖くなり職員室に駆け込んだ。先生が確認に行ったが、血のようなものはない。次の日から三階のトイレは使えなくなつた。

一年たったある日、私は友達にくるみちゃんと図書室で宿題をしていた。くるみちゃんが、「トイレに行ってくる。」

と言ひ残し、図書室を出ていった。・・・三十分経って

も帰ってこない。嫌な予感がした。一年前の記憶を呼び覚ましながら、私は三階のあのトイレに向かった。

「くるみちゃん?」

と声をかけると、一番奥のトイレからうめき声が聞こえてくる。私は勇気を振り絞つてトイレの扉を開けた。そこには誰の姿もない。すると、あのとまのようなトイレの中からポコッ・ポコッ・ポコッ・ポコッという音が聞こえてくる。私は中を覗き込んだ。その瞬間、トイレの中から突然手が出てきて私の首を締める。私は

「だれか助けて!」

と叫んだ。遠のく意識の中で誰かが私を呼ぶ声がした。

「かえでちゃん、しつかり!」

トイレに引きずりこまれそうになった私を先生とくるみちゃんが引き止めてくれたのだ。くるみちゃんは、三階のトイレに異変を感じて、職員室に先生を呼びに行っていたのだつた。

私は、あの時のことが今でも本当の出来事かどうか分からない。用をたす時に、ポコッ・ポコッ・ポコッ・ポコッという音が聞こえてきたら、決して覗き込んではいけない。トイレの中からあなたを見ているかも。